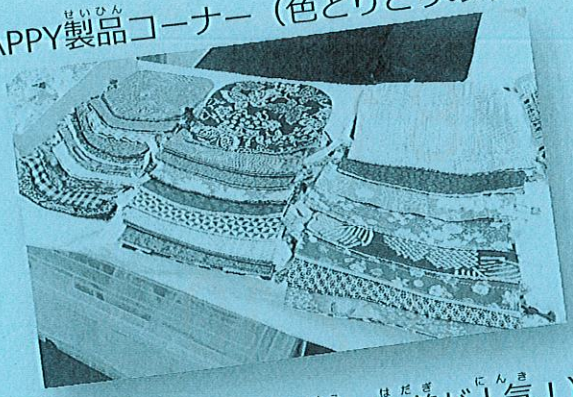
9/1

秋の福祉バザー

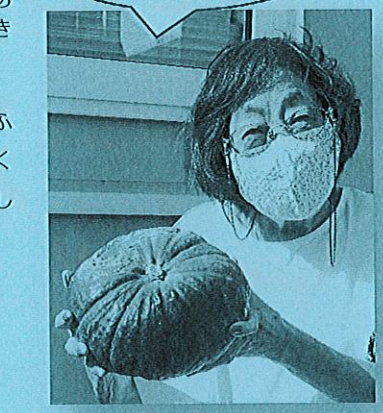
ダリア祭

HAPPY製品コーナー（色とりどりの巾着袋）

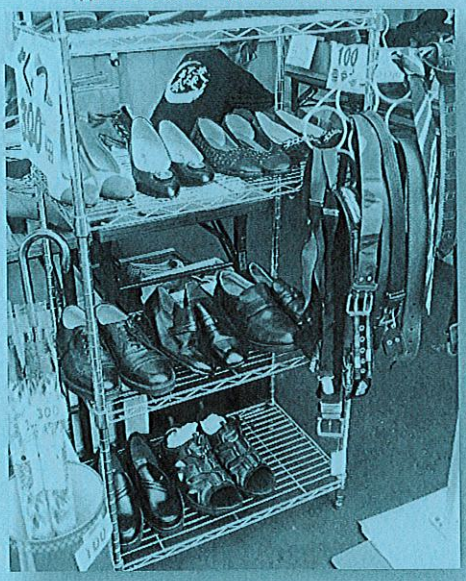


衣類コーナー（男性用の肌着が人気！）

瀬戸物コーナー（レトロな食器に出会える）



雑貨販売（靴が豊富！）



地域の皆さま。
沢山バザー品を
ご寄付頂き

ありがとう
ございます

にぎわうバザー会場

共同作業所・HAPPY

物価高騰にも負けないエコ石けん（手作り廃油石けん）

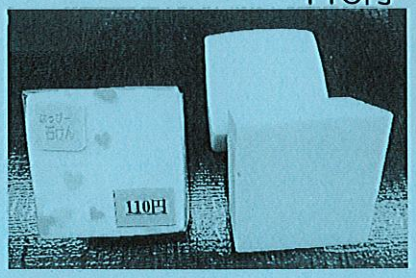
はっぴー石けん

一家に１個。はっぴー石けんをどうぞ！（各種100円～）

ハッピー石けんは家庭で出た廃油と苛性ソーダでできています。ご近所の方や、HAPPYで石けんを作っている事を知った飲食店の方からも廃油を寄付して頂いています。石けんの型には牛乳やジュースの紙パックを使用。これも寄付です。ですからみなさまに助けられて、HAPPY石けんは物価が上がる中、110円で販売を続ける事ができています。

また、手稲区の町内会のSDGs学習会でエコな商品としてハッピー石けんを配布したいと200個も注文を頂きました。コロナ禍で販売活動が思うようにできない中、大変ありがたくメンバー・スタッフみんなで大喜びでした。

不動のNO.1『廃油石けん』110円



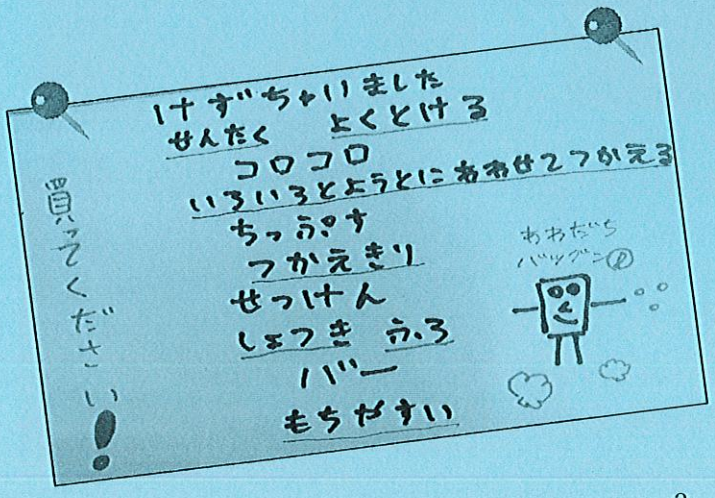
食器洗い、掃除に洗濯。
オールマイティーに大活躍。

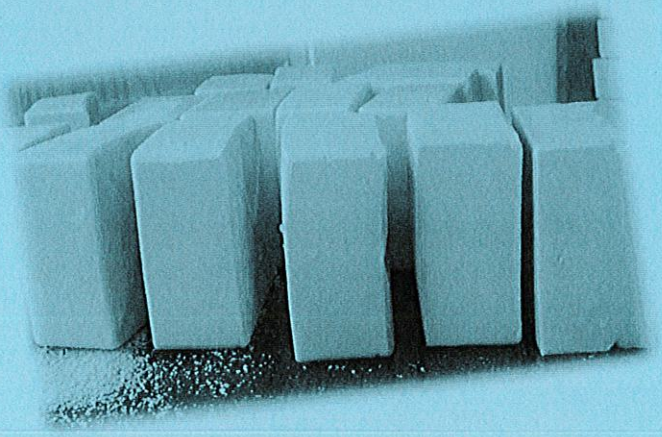
『石けんバー』100円

にぎりやすいので、靴下などの部分洗いなどにおススメ。
台所に１本。洗面所にもう１本。

『削っちゃいました』100円

お湯に溶かして、つけ置き洗いや、スポンジにつけてクシュクシュすると泡立ちます。
便利ですよ！

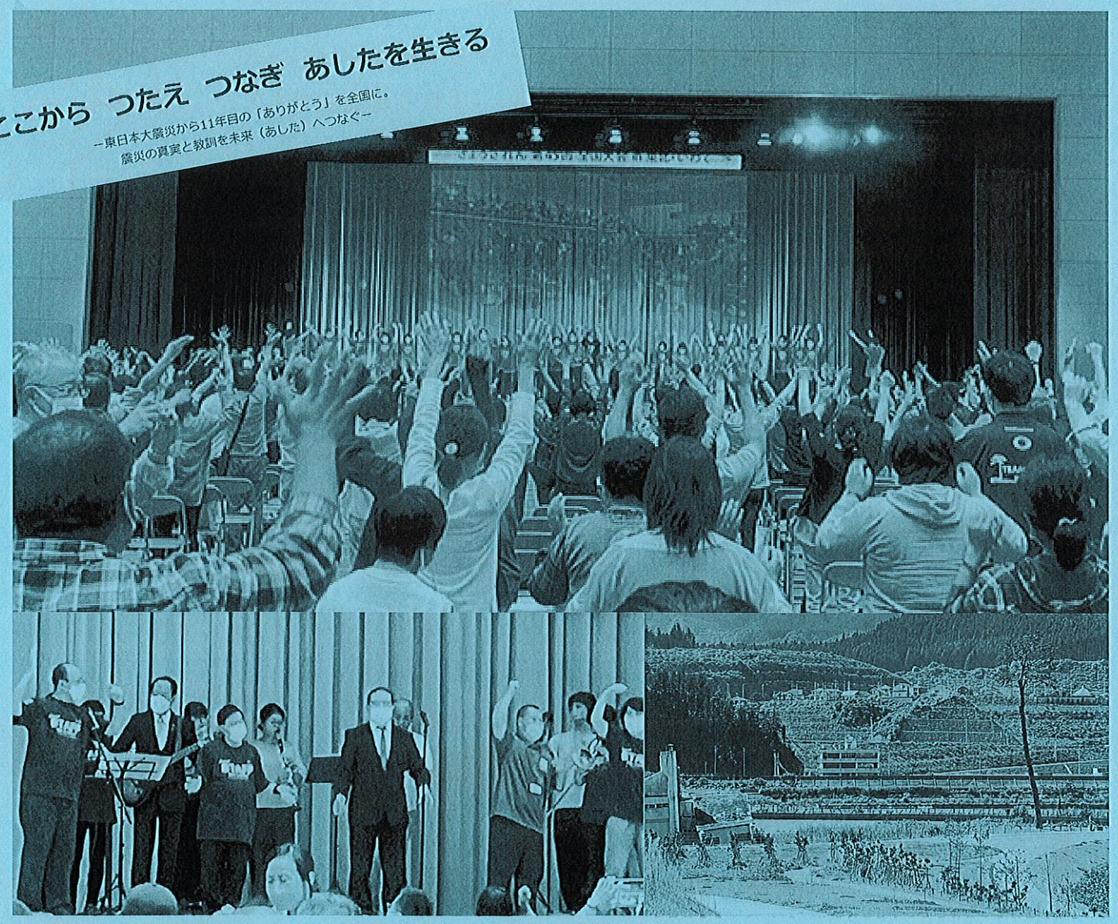




きょうされん 第45回全国大会 in 東北・いわて

2022年 9月30日（金） 10月1日（土）

メイン会場：夢アリーナたかた（陸前高田市総合交流センター）
岩手県陸前高田市高田町字太田5番地



大会に参加して　　グループホーム結 世話人 松浦めぐみ

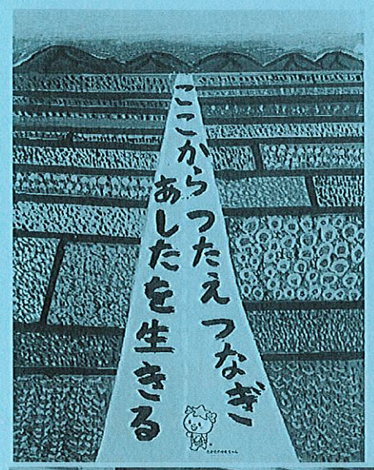
東日本大震災から11年が経ち、壊滅的な被害を受けた陸前高田市も、なんとか生活が出来る所まで復興が進んでいました。2日目の昼食休憩を利用し、奇跡の一本松を見て来ました。タクシーの運転手さんは海岸付近を見て「この辺りも震災前は住宅が建ち、商業地帯だった。」と教えてくれました。今は道の駅があるくらいで、あとは広い道路となっていました。民家などは海岸から離れた所に、大きな病院は山の上に建っていて、通院には大変そうだなと思いました。「今でも大きな地震があり、その度にドキッとする」と話されていました。

今回の大会実行委員長を陸前高田市の戸羽太市長が務められました。高田市は『ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくり（障害のある人もない人も同じように輝き生活ができる共生社会のまちづくり）』を掲げ、市民の声を聴いてくれます。こんな温かい岩手での大会に参加させて頂き、貴重な時間を過ごす事が出来ました。ありがとうございました。

分科会「暮らし・居住支援」の報告　　精神障害者を支援する会理事 片山和恵

この分科会は関心が高く、全国各地から職員・当事者・家族等80名が参加しました。始めに、陸前高田市にある愛育会清水紀彦さんより、2011年3月東日本大震災で6ヶ所のグループホームすべてが流された中28人の利用者に被害が無かったこと、5ヶ月後8月にグループホーム型応急仮設住宅に移れたこと、6年後2017年に利用者も被災者であることが認められ、全国で初めて災害公営住宅にグループホームを作ったこと等、長年の運動の成果が報告されました。また、避難訓練は、職員が不在時の夜間・休日・外出先なども想定し、自分で自分の身を守ることを事前に話し合うことが大切と強調されました。

次に、私が、国が予算削減のために①グループホームをこれ以上増やさず、数年でアパートへ移行する通過型制度を作ること②障害支援区分が低く判定されがちな精神や知的障害者はグループホームで暮らし続けることが難しくなる等、来年の法律改正に対し危機感を報告しました。さらに支援する会の実践から、精神障害者は病気と障害を抱えており心に寄り添う支援の必要性、障害支援区分に関わらず手厚い支援を必要としている状況、グループホームで暮らし続けたいと考えている方が多いこと等を訴えました。分科会では障害当事者が自分の暮らしの場を選べることが重要課題とまとめられました。



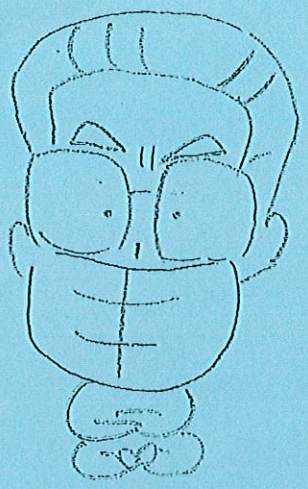
きょうされん 45th 全国大会 in 東北・いわて

BUILD BACK BETTER

第45回きょうされん全国大会in東北・いわて

スタッフ紹介

西村伊久夫です



マスクの下はないしょ

北海道民医連の42年半の勤務を終えたところで、細川さんから声をかけていただき、昨年12月からお世話になっています。

一年近くたっても前職との違いに、無愛想なので皆さんに不快感を与えていないか、できているのかと考える毎日ですが、力になれればと思っています。

歳は行ってますが宜しくお願い致します。

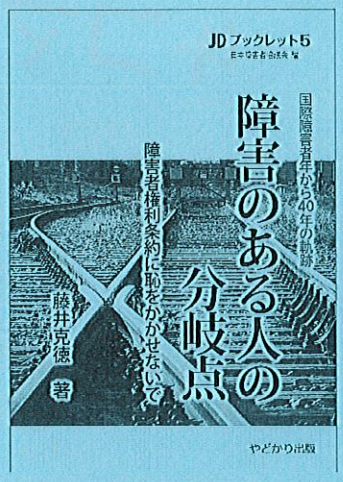
メンバー紹介

名前	
うめたに　ひろこ 梅谷浩子	
好きなもの	オムライスです
苦手なもの	レバーは無理です
挑戦したいこと、がんばっていること	
すぐにベソベソ泣く弱さがあるから、自分で言葉に出して言うようにすること	
みんなに知って欲しい事や言いたい事	
みんなと仲良くしたいです。	

ダリアの壁紙カレンダー

毎月、ダリアの郷支援センターでは、午前中のプログラムで、壁紙カレンダー作りを行っています。みんなで出し合ったその月のイメージをもとに、どんなカレンダーにしたいか話し合い、作成しています。

毎月のカレンダーを支援する会ホームページに掲載しています。ぜひご覧ください！



1981年の国際障害者年以降を中心に、この40年間の障害分野の主な出来事や評価を書きおろした、「近年障害分野の早わかり版」である。

「障害のある人の分岐点」を読んで(2)

板谷幹男

（前号からの続き）

高校卒業後、脳神経外科病院で働きながら夜間の看護学校に通い、資格取得後、知的障害者施設の医務室に勤務した。尊敬する上司に「利用者の気持ちを解っていない。心を勉強してきなさい。」と指摘され、それで精神科に勤めることになったのだった。「障害児であることが、妊娠中に判明した場合、人工妊娠中絶をすべきだ。」と高校時代から思っていたけれど、それが優性思想であることに気付くのは、ずっと後になってからのことだった。

二五歳の頃に、八王子医療刑務所と府中刑務所や東京の無認可の共同作業所を見学して回った時に、「札幌の障害者事情」を尋ねられ、市内の無認可の小規模作業所や近郊の施設を見学することを始めた。「いちご会」「工房・児地蔵」「自立塾」「社会参加共同作業所」「すみれ共同作業所」そして「福祉村」「べてるの家」「太陽の園」「手づくり工房あかしあ」等々。そこの利用者や家族、職員や支援者との出会いから、様々な社会的困難が浮かんで見えて来た。

当時は、精神病院で働きながら様々な障害別の小規模作業所や入所施設、病院も見学した。開放病棟開設と聞き函館の渡辺病院、開放病院と聞いて苫小牧の植苗病院等々。自分が支援コンサートを企画開催したりするなか、障害当事者らは、進んで地域生活を求め、それに呼応するように関係者達も、声を上げ始めていた。制度に振り回されながら、共同住居ができたりしていった。

四〇歳を過ぎた頃に看護師の専門誌「月間ナーシング」から執筆依頼がきて『病気か障害か、医療であるのか福祉なのかということ～分裂圏メンバーへの新たなアプローチと看護業務に関する考察～』を書き「病院は、何を為すべきか」を各々が、其々の立場で活動することを願いつつ、勤務先で「精神疾患の治療から障害としての福祉」へ移行することを提案し、率先して行うようにした。住居が無いなら一般のアパートを借りる、働く場所が無いなら作業所を作る。高齢化に対しては介護付き老人施設を…等々。

翌年、病院長に呼ばれ『一億円の損失』を告げられ、責任を問われ辞したけれど、三年後には提案した全てが、順調に稼働していたので、改めて、再び雇用して貰おうと交渉したけれど無下に断られた。五十過ぎの男で准看護師資格となると、病院の就職は難しく、起業する才覚も無く、障害者施設や高齢者施設を転々としながら、妻も働き始め生活を維持していた。

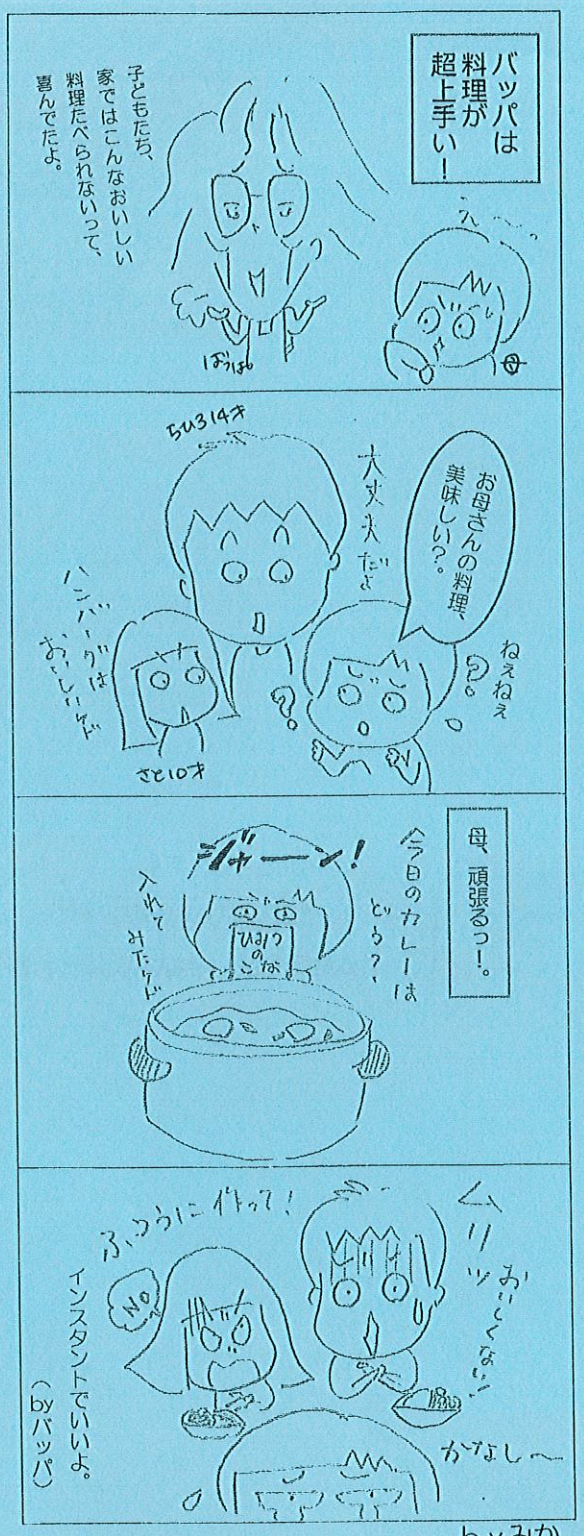
そうこうして「有料老人ホーム」で働き、椎間板ヘルニアが悪化して、無職となって「すみれ共同作業所」で、五十円の昼食を食べに行っていた時、偶然、細川さんと再会した。

あの時に拾われるようにして「支援する会」で働けるようになったのだった。そんなことを思い出していた。

この本は、文字が小さいだけでなく難しく読み難いながら、筆者の遅々として浸透して行かない福祉の現状を憂い、出来事を時系列にまとめつつ、希望を捨てない姿が浮かび、福祉現場にいる者を鼓舞させる熱い想いの本だった。

おわり

4コマまんが



byみか

≪寄付金・寄贈品≫

当会の活動に対し、ご支援いただき厚くお礼を申しあげます。

（順不同・敬称略）

2022.7.1～2022.9.30

北海道生活と健康を守る会連合会、（有）藤本青果店、土沼芳枝、増田順蔵・ゆみ子、船津充洋、小竹澄枝、伊藤朋也、石戸谷、鎌田、打矢、向山、塩野、長谷川、安孫子征郎、内田民江、中澤昭子、梅谷浩子、笹、安彦洋子、小野、宮岸真澄・文子、水谷セイ子、野崎、落合、田口孝子、内城雅仁、石井、高坂瑞世、齋藤淳子、佐藤恵一、岸山周司、半田修、沼山恵美子、玉木藤子

～ご協力のお願い～

『書き損じハガキ、ありませんか？』

いつも、ご協力頂きありがとうございます。支援する会では、書き損じハガキを、支援する会の財政活動に使わせて頂いております。引き続きご協力をお願い致します。

HSK　こころから

昭和48年1月13日第三種郵便物承認

発行　2022年10月10日（毎月10日発行）

HSK通巻番号607号

＜編集後記＞

2001年10月に『こころから』1号が発行されてから21年がたちました。『自立支援法案に、私たちの声を私たち自身が行政に届けよう』（2005年9月号）、『支援する会新築ビル完成』（2011年5月号）、『生活保護基準の引き下げを止めよ。審査請求書提出集会に参加』（2013年10月号）、『北海道胆振東部地震。その時支援する会は』（2018年10月号）、『新型コロナウイルスに負けないぞ』（2020年4月号）。振り返るといろいろな事がありました。今後も変化する社会情勢の下、支援する会がどんな活躍をしていくのか。『こころから』で皆さんにお伝えしていくのが楽しみです。（藤原）